

米国 製造業が低下も電力需要が押し上げ (09年12月鉱工業生産)

発表日：2010年1月15日 (金)

～2010年前半にかけて製造業生産の拡大は持続～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

鉱工業生産は前月比+0.6%と6ヶ月連続拡大 12月の鉱工業生産は、前月比+0.6%と市場予想通りとなり、6ヶ月連続で増加した。製造業が減少し、鉱業が拡大ペースを鈍化したものの、公益が拡大に転じた。悪天候によって公益が急拡大し、生産全体を押し上げており、12月の生産統計の中身は良くない。もっとも、製造業は高い伸びの後で小幅減少する動きを繰り返していること、受注の拡大が続いていること等から生産の回復傾向には変化はない。また、鉱工業生産は3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+7.0% (前月+9.5%) と回復のモメンタムは強い。

四半期では、10～12月期は前期比+1.7% (7～9月期同+1.7%) と2四半期連続で高い伸びとなった。鉱工業生産はグローバル・リセッションの影響を受け2009年4～6月期にかけて急激に縮小した後、世界景気を持ち直しや縮小ペースの鈍化、自動車販売の急増等による在庫調整の進展を背景に2四半期連続で拡大した。

稼働率は、生産能力が前月比▲0.1%と縮小したうえ、生産が拡大したことにより、72.0% (11月71.5%) と上昇した。ただし、稼働率の水準が低いことに加えて、失業率の高止まり、物価の低位安定などによって、FFレート誘導目標の適正な水準は現在約▲5.4%と大幅なマイナスとなっていることから、FRBによる事実上のゼロ金利政策の長期化が正当化される状況が続いている。

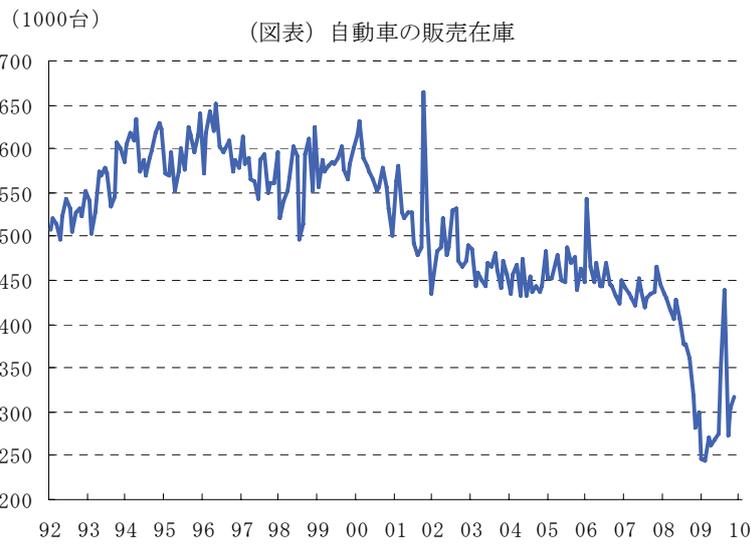
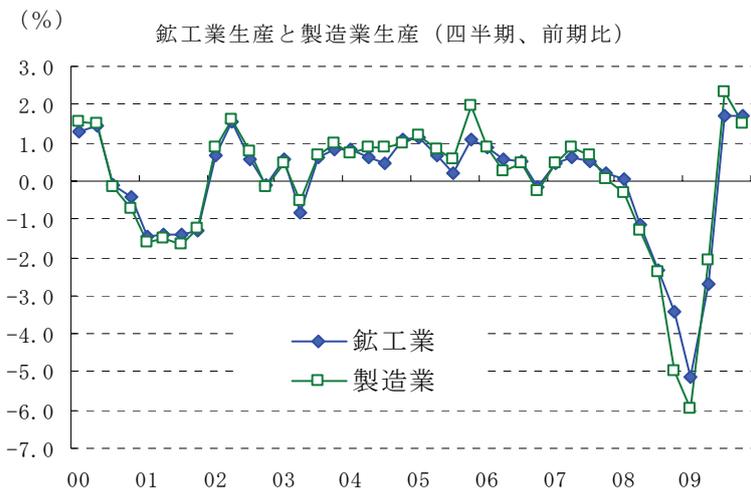
市場の反応をみると、債券市場では反応薄、為替市場では対ユーロで弱含みも対円で反応薄。

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)							設備稼働率	生産能力
			製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	製造業 (NAICS)		
09/01	▲2.2	(▲10.9)	▲2.7	▲0.6	+0.2	▲0.3	▲2.9	▲26.0	+71.1	+67.0	▲0.0
09/02	▲0.8	(▲11.3)	▲0.1	▲1.4	▲4.5	▲2.3	▲0.1	+8.9	+70.6	+67.0	▲0.0
09/03	▲1.6	(▲12.5)	▲1.5	▲2.6	▲0.3	+0.5	▲1.9	+1.7	+69.5	+66.1	▲0.1
09/04	▲0.5	(▲12.4)	▲0.3	▲2.6	+0.3	+1.6	▲0.6	▲0.2	+69.2	+65.9	▲0.1
09/05	▲1.1	(▲13.1)	▲0.9	▲1.1	▲2.0	▲2.3	▲0.7	▲7.5	+68.5	+65.4	▲0.1
09/06	▲0.5	(▲13.3)	▲0.4	▲1.5	▲0.5	+0.3	▲0.4	▲5.5	+68.3	+65.2	▲0.1
09/07	+1.2	(▲12.2)	+1.7	+1.5	▲1.0	+2.9	+1.5	+23.5	+69.2	+66.4	▲0.1
09/08	+1.3	(▲10.0)	+1.4	+2.0	+0.6	+0.1	+1.6	+4.0	+70.2	+67.4	▲0.1
09/09	+0.6	(▲5.7)	+0.7	▲0.2	+0.6	▲0.6	+0.6	+8.5	+70.8	+68.0	▲0.1
09/10	+0.2	(▲6.7)	▲0.1	▲0.0	+2.6	+0.9	▲0.2	▲2.4	+71.0	+68.1	▲0.1
09/11	+0.6	(▲4.9)	+0.9	+1.9	▲2.4	+0.1	+1.0	+1.5	+71.5	+68.8	▲0.1
09/12	+0.6	(▲2.0)	▲0.1	+0.2	+5.9	+2.4	▲0.2	▲0.1	+72.0	+68.8	▲0.1

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

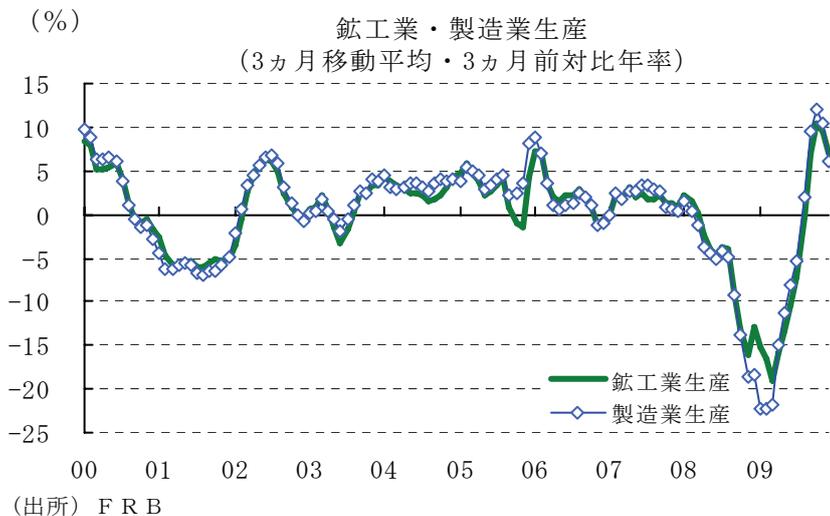


12月の製造業生産は前月比▲0.1%と小幅低下も回復基調に変化なし

12月の製造業生産は、非鉄、石油・石炭、電気機械・電気部品、紙・紙パ、自動車等が縮小し、前月比▲0.1%下落した。生産の拡大した業種数は、自動車生産の縮小などの影響を背景に19業種中8業種（前月14業種）減少した。ただし、小幅低下にとどまっていること、製造業受注の拡大が続いていることから、一時的な動きと判断される。さらに、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+6.1%（前月+10.4%）と高い伸びを維持しており、製造業生産のモメンタムは強いままである。

自動車部門では、自動車部品が前月比+0.2%と増加したものの、ビッグスリーなど完成車が同▲0.7%と減少したため、全体でも同▲0.1%（11月同+1.5%）と減少した。12月の自動車生産を台数でみると、年率換算706万台（前月比▲1.9%）となった。

一方、世界的に拡大しているハイテク部門では、コンピューターが前月比+1.2%、通信機器が同+2.9%、半導体が同+2.7%と高い伸びとなり、ハイテク生産全体は同+2.4%（前月同+0.1%）と加速した。

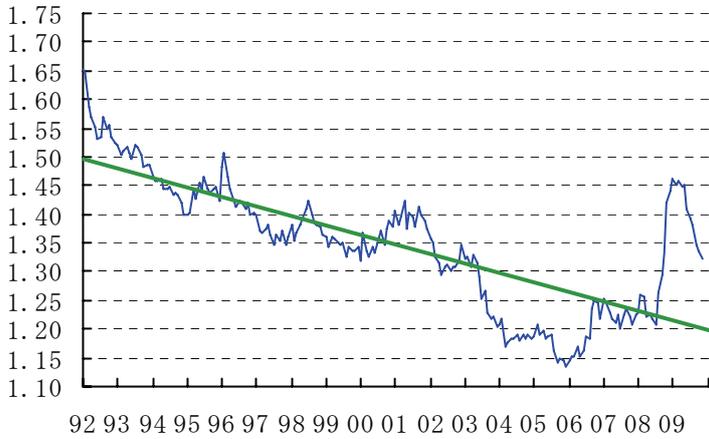


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

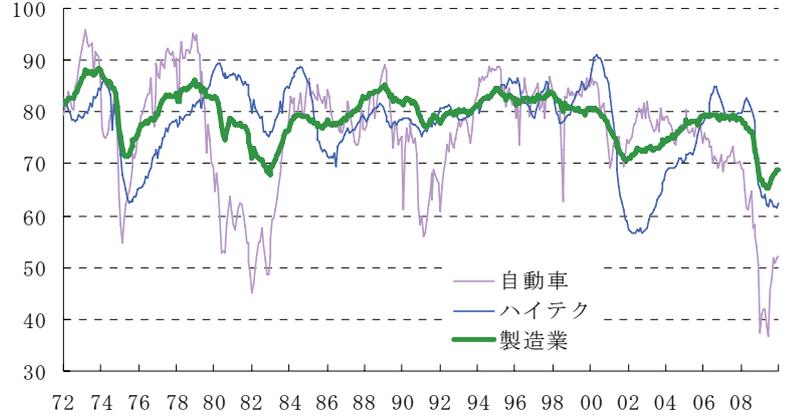
製造業稼働率は68.8%

製造業では、生産が低下も生産能力の削減によって、稼働率は12月で68.8%（前月68.8%）と横ばいとなったが、低い水準。特に、自動車部門は52.1%（前月52.0%）と、低水準にとどまっている。景気対策で企業向け減税が実施されているが、稼働率の回復には時間がかかるとみられ、増産投資の回復ペースはかなり鈍くなると考えられる。

製造業在庫率の推移



稼働率 (%)



**米国生産活動は2010年
前半にかけて前期比で拡大を
続け、前年比ではプラス幅を
拡大する公算**

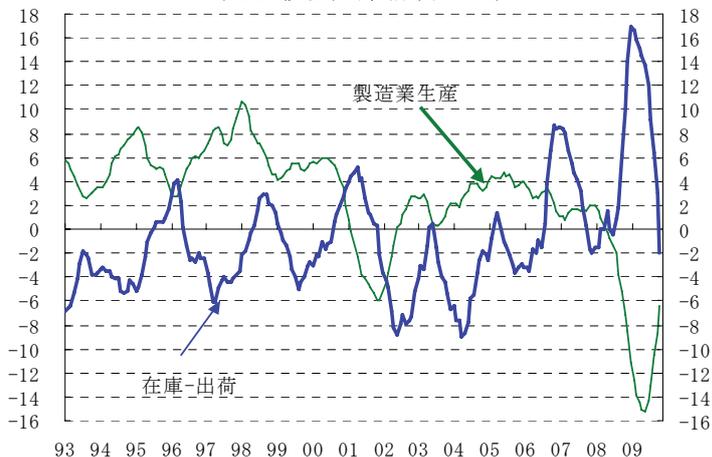
今後の生産活動に関しては、製造業生産の前年比でのピーク、ボトムに3～6ヵ月先行する傾向がある「在庫出荷バランス（在庫-出荷）」が09年2月にピークをつけ10月まで低下を続けており、製造業生産は2010年前半にかけてマイナス幅を縮小する公算が大きい。

主要産業をみると、自動車部門では自動車メーカーの販促により、2010年前半にかけて自動車販売は年率換算で1000万台～1100万台程度で推移すると予想されるが、生産は水準が低く緩やかな拡大を続けると見込まれる。

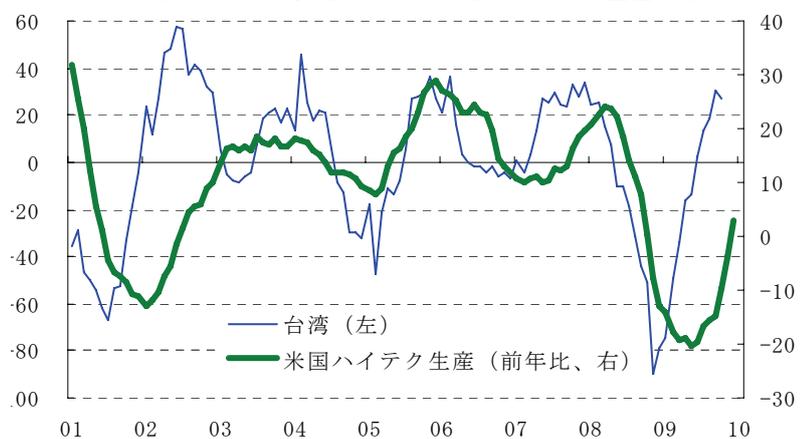
また、ハイテク部門では世界的なハイテク循環に先行するといわれる台湾電子部品産業の出荷在庫バランスが上昇しており、ハイテク部門が回復傾向を迎える可能性が高いことを示唆している。米ハイテク生産は同バランスに数ヶ月程度遅れて動く傾向があるため、2010年前半にかけて拡大すると見込まれる。

以上のことを勘案すると、米国生産活動は2010年前半にかけて前期比で拡大を続け、前年比ではプラス幅を拡大する公算が大きい。

(%) 製造業部門の在庫調整圧力（在庫-出荷）と生産の推移
（3ヵ月移動平均、前年同月比）



(%) 台湾電子部品の出荷在庫バランスと米ハイテク生産の推移 (%)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。